

落語家の立川寸志さんをお招きして

## 「落語教室がありました」

それでは口上風に 落語家の立川寸志さんを御紹介します

～～日本の伝統と文化を継承し、冷めた令和の世を憂い、  
時代時代の枠を超え、江戸の笑いで令和も救う。  
ひとたび声を発すれば、言葉の泉があふれ出す。  
その姿、よどみなく流るる清流のごとし。  
広い背中にリュックをしょって、風呂敷もって現れる。  
サラリーマンから落語家へ、異色の経歴キラリと光る、  
落語界のニューヒーロー その名は「立川 寸志さん」～～

令和5年2月9日（木）寸志さんはやって来た。子供たちに落語を聞かせるため、いやいや日本文化を伝えるために。

午前中は中学部、午後は小学部にて2時間に及ぶ口演を行った。  
寸志さんの声のトーンが落ちることはなく、最後まで子供たちを笑わせ続けた。



「子ほめ」「時そば」「猫と金魚」  
「牛ほめ」とたくさんのお話を披露し、  
さらに小道具を使った落語特有の動きや所作なども教わった。江戸時代の話に心打たれる友がいた。何気ない日常の中に伝統芸能が根付く社会、そんな社会がこの先もずっと続きますように。